

2008年8月6日

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)
ホームページ http://www7a.biglobe.ne.jp/~khj_olive/

蝉時雨を浴びながら公園を行くと遠い日に帰ったような気がする。
そんな思いの場所から もう一度スタートが切れそうな気がした。
連日の猛暑 いかがお過ごしでしょうか。つきましては下記の通り八月の月例会を開催いたしますので、ご出席くださいますようご案内いたします。

第74回月例会ご案内

- 1) 日 時 8月24日(日)
13:00～13:30 受付
13:30～13:45 理事長から報告・連絡
13:45～16:30 グループカウンセリング
指導 NPO 法人日本教育カウンセラー協会
香川協会顧問 松田 勝 先生
- 2) 場 所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 1家族 1,000円

(注) 年度会費納入のお願い

既に年度会費は、多くの方に納めていただいておりますが、未だ納入されておられない方は例会参加時でも、郵便振替による払い込みでも結構ですので、よろしくお願ひします。

郵便振替の場合

口座記号番号 01610-1-130022
加入者名 特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

【今後の月例会】

平成20年 9月21日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30～16:30
(誤)9月28日 (正) 9月21日(日)
" 10月26日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30～16:30

【ポレポレ農園】

- ・ 県外から若者が多く来ていますが、みんな元気で作業に汗を流しています。農園を卒業し旅立つ若者も出てきています。
- ・ ポレポレ農園を見学したい方、野菜の購入や作業等、わずかな時間でもお手伝いを頂ける方（ボランティア）は松田先生（携帯電話 090-8695-0904）までご連絡下さい。

【若者の集い】

7月19日（土）若者2名、小豆島から1名（杉本さん高知講演のため欠席）
当番・役員2名 親御さん1名参加 お茶を飲みながら会話ははずんでいました。
8月は16日（土）です。親子で一度参加してみませんか。

【居場所活動予定】

- | | | |
|----------|-----------|---------------|
| 8月 3日（日） | 運営委員会 | （13:30～ ） |
| 8月 9日（土） | 個人カウンセリング | （9:00～13:00） |
| 8月16日（日） | 若者の集い | （13:30～16:00） |

【おしらせ】

「さぬき若者サポートステーション」見学 8月11日（月）14時～

所長 鷲見(ミ)典彦氏と面談（場所 JR丸亀駅前）

親同士の交流会に参加 8月12日（火） 県東讃保健福祉事務所 保健対策課

・ 精神障害にかかわるご家族と共通する状況など話し合い（場所 大川合同庁舎）

知事への要望書提出 8月22日（金）

・ 都築信行県議会議員のご配慮で、高木孝征副知事に面談予定

四国ブロック会議 10月12日（日）（場所 高知やいろ鳥の会居場所（いの町））

・ 各県の状況と私たちの要望

・ 四国ブロックとしての署名活動

・ 国の動きとひきこもり支援の到達点と課題（NPO法人なでしこの会 KHJ 東海）

*なでしこの会はKHJ全引連作成の要望書（4月9日）と同じ内容で（表現は違うが）、

独自に厚生労働省社会援護局宛の ひきこもり支援に関する要望書を作成、署名活動も合わせて実施。公的支援署名 2146人集約（7月31日現在）11月29・30日のKHJ広島大会までに1万人の署名を目標。（会報より）

【前回の月例会より】

ビデオ学習「大人のひきこもり」（5/12 テレビ朝日放映 中垣内先生より）

全国でひきこもり原因の事件が相次いでいる。（先日の富山県の事件など）ひきこもりが長期化すると（平均年齢も30歳を超え）親の高齢化と共に、親亡き後の対応が最大の課題である。

ひきこもり外来を受診した患者年齢層も30代を超え、専門家は長期化する危険性について話している。食生活の片寄り、運動不足から身体をこわしている。身体障害、さらには知能低下、妄想、うつ状態などを引き起こし医療の関与が必要となっている。

ひきこもりの高齢化は本人以上に親たちも苦しめていた。

社会人になってからの大人のひきこもりが増えている。事例を挙げて訴えている。また東京都のひきこもりの対策として1億6千万円予算が付き、早期対応、未然防止、個別訪問、家族への助言なども行うとのこと。社会的損失・労働力の減少など諸問題をかかえて、行政が関与する必要性（他者とのつながりの大切さ）と早急な対策が必要となる。

[父親の集い & 父親の思い] 発言の概要

親の力には限界がある。兄弟・近親者でも頼りに出来ない。冷たくなってきた。（逆に関わりたいと思っていないのかも知れない。）やはり第三者の力無くしては道は開けない。東京都は引きこもり支援に1億5千万円の支出予定。ならば香川県の行政はどうなっている。6年も経って未だ、助成金をもらっていないのか？

国政に近いところから、また大事件を起こしたところから、行政は動かざるを得ないのではないか。

今に、どの自治体でも取り組まざるを得ない時が間もなく来る。その時、私達 親の立場が大変調歩がられるに相違ない。その為に一步一步会員が一致団結して頑張っ参りましよう。また同時に多くの理解者（行政&一般賛助会員）を増やして行きましよう。

親の会へ来て良かったことは、子どものひきこもりが親の所為でないことが解ったことだ。一人で考えていると辛い気持ちが増幅して自分を責めていた。親の会に出席できたために救われた。

でも、子どもに対する親（父親）としての役割はあったはずで、全く責任回避と云う事にはならないのだと思う。（しかし、心が楽になったことでは賛同する。）

何人かの方で、松田先生と何らかの形で関わりを持たれてきた親御さんは、何処か心の落ち着きが感じられた。

- 40代男性
- ・15～6年引きこもり。
 - ・食事は親が寝た後です。病院も出向けないので見てもらえない。
 - ・大学卒業後、東京で就職したが会社が倒産。帰ってきてからあちこち勤めさせたが結局、親の気持ちだけで何とか働かせようが先に立ち、子どもの意見が入ってないままの対応（子どもの意思を押さえつけた）が悪かったと反省。
- 30代男性
- ・父親4月退職。従来言っていた「こうでなければならぬ」は止めた。親自身の態度を変えた。大学中退、10年間引きこもり。
 - ・メール、メモ書き、FAXによる伝達にした。反応があった。
 - ・介護をしている母親とは話す。父とも接近始まる。2人がそれぞれ分かれた立場で対応しているので「家族の行事予定表」を作った。
 - ・ポレポレ農園との関わり。今は薬草の話題。
 - ・車の免許・大型も持っている。（更新時期ぎりぎりでクリアした）（今は、誕生日の一ヶ月後まで有効となっていて、そのギリギリだから、ハラハラである）
 - ・野菜は運んでくれている。
 - ・現時点では県の行政に頼っても逃げ腰。財源もない。国の力を要するとき。
 - ・親が力を入れてやるしかない。年金手帳も視野に自分達に出来ることを最大限やろう。

- 30代男性
 - ・7年離れていた。大学。勉強しろとたきつけたことの反省。自由な環境にしてやれてなかった。自分自身の考えが芽生えない。
 - ・東京にいる時、コミュニケーション。24:00過ぎ妻へ電話があった。悪かったと誤り、家族の中へ連れ戻す。以来2年半。1年間は母親非難。次は父親に向かう。(からかいから)根気のいる仕事をしている父にアホ扱い。(しつこくは言わないが)こんな家に生まれてきてと愚痴を言う。(否、生まれさせられた)
 - ・何でも聞いてやろう。「親の所為」の言葉は、そう思うことで安住するのだ。
 - ・大学卒業。自分探しのアルバイト。見つからないまま、東京でブラブラ、仕送り続く。その後帰らず。
 - ・齋藤環先生の指導に共鳴。親の合宿。
 - ・カウンセリングより、「親の収入計画」を示せ。
 - ・父親の会に参加。土日は子どもに、他は仕事に、両立の折り合いをつけながら歩みたい。

[母親グループの話し合い] から

- 30代女性
 - ・大学卒業後、ひきこもりと仕事を繰り返している。
 - ・若者の集いに参加するようになって、明るくなってきた。
 - ・家事もこなし、集いへの電話連絡も出来ている。
- 20代男性
 - ・高校1年の時いじめが原因でひきこもり1年以上になる。
 - ・未だにフラッシュバックがあり、ゲーム、アニメに浸っている。
 - ・母親以外の家族は怠けていると思い、本人への風当たりが強くなってきている。
 - ・カウンセリング(開業医)に無理に連れて行ったが、それ以来行かないと言っている。
 - ・母親はポレポレ農園に行ってほしいと思っている。
- 30代男性
 - ・ひきこもって10年になる。その間 歯科、ハローワークへ行ったきりで外出していない。
 - ・自室にはいないが昼夜逆転している。
 - ・弟が齋藤環氏の本を薦めてくれ、父親は怠けていると思っていたが、家族が変わろうとしている。おはよう、ご苦労様などの声かけをするようになった。
- 40代男性
 - ・35歳まで働いていた。体調を崩し家に連れて帰る。
 - ・1ヵ月後位から暴力が激しくなり、親と環境、周囲が悪かったと言っている。
 - ・今は暴力は無くなったが、毎日威圧的であり言葉の暴力がある。
 - ・松田先生のカウンセリングを受け、親が変わり、本人を認めることから取り組んでいる。
- 20代男性
 - ・一人暮らし。(親が経済的援助をしている)
 - ・年に5回くらいは帰宅している。
 - ・フリースクール、若者の集い、カウンセリングなど勧めるが応じない。
 - ・見守っている。

以上